

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
	<p>[第1学年]</p> <p>小学校での既習範囲である言語知識の再習得の徹底に励み、自己の考えを発表する表現力、意見交流により他者の思案を取り入れる判断力、理解できたことを文章にする思考力の構築のために継続的に取り組んでいく。</p> <p>①授業に意欲的に取り組み、積極的に挙手・発言できる姿勢を育成する。 ②教育漢字の確実な習得と的確な活用となる基礎学力を定着させる。 ③家庭学習を習慣化させるため、毎単元で使用の授業プリントを提出させる。 ④設問に対する正当性の判別や、文章における読解力、理解力の育成させる。 ⑤思考の整理と文章化において、わかりやすくまとまりある表現ができるようになっていく。</p>	<p>①毎時間1回以上の挙手・発言を目標とする。全体への発問を行ったうえで思考の時間を設定し、自主的に行える意欲を喚起する。回数を毎時間、授業シートに記入させ、累積数を認知することで意欲の向上につなげる。</p> <p>②毎週の最終日の授業の最初、40問の教育漢字問題の設定から1問1点で10問を出題した2分間の書き取り試験を実施する。目標点は8点以上でA評価とし、返却時に即時に訂正をさせ、多い誤答については全体で共有する。長期休業中には漢字の練習100問を範囲として50問の漢字テストを行う。目標は8割として、A評価とする。</p> <p>③すべて自作のプリントを使用し、随時提出させる。単元開始前には新出漢字・意味調べ・感想・要約・設定問題について予習として家庭学習の上で提出させる。正当性だけでなく、完成度を重点として評価する。</p> <p>④単元の総括として、自作の問題プリントを使用、宿題で取組、授業で意見交流、自己で再検討させた上で提出させる。他者との比較検討を行えているか、指摘を明文化できたかで評価する。</p> <p>⑤前時の内容をまとめたものを授業開始時、1分ずつ3名程度、学期で3回以上スピーチさせることで「話す」表現力を高める。内容・視線・構成で8割の達成でA評価する。さらに聞き取りテストを学期に2回以上を実施、内容の重要性の整理と判断する手立てを習得させる。8割の得点でA評価とする。</p> <p>⑥授業の最後で、4分100字(1学期)、5分130字(2学期)、5分160字(3学期)と設定して、本時の内容をまとめる。「なぜ」大事なのか、「どんな」ところが重要なのかを考え、具体例を挙げて文章化することで理解を深長させる。</p>	
国語	<p>[第2学年]</p> <p>小学校から中学校の既習範囲である言語知識の確認に基づき、相手の理解しやすいを考慮した表現力、意見交流により他者の思案を評価できる理由を抽出した上で取り入れる判断力、重要点を端的にまとめ、具体例と理由を明確に文章にする思考力の深化のために継続的に取り組んでいく。</p> <p>①授業に意欲的に取り組み、積極的に挙手・発言できる姿勢を伸長する ②既習の語彙や文法事項を正確に活用できる応用的な学力を構築させる。 ③家庭学習を習慣化させるため、課題を指示し、毎単元で使用の授業プリントを提出させる。 ④設問に対する正当性の判別や、文章における読解力、理解力を伸長させる。 ⑤意見交流や集団討論などによって、相手の思考と自己の意見の比較を行い、他者にとってわかりやすい表現の工夫と、伝える際における説明の明確な根拠と理由をまとめていく能力を追求させる。</p>	<p>①毎時間1回以上の挙手・発言を目標とする。全体への発問を行ったうえで思考の時間を設定し、自主的に行える意欲を喚起する。回数を毎時間、授業シートに記入させ、累積数を認知することで意欲の向上につなげる。</p> <p>②毎週の最終日の授業の最初、40問の教育漢字から常用漢字の範囲で1問1点で10問を出題した2分間の書き取り試験を実施する。目標点は8点以上でA評価とし、返却時に即時に訂正をさせ、多い誤答については全体で共有する。長期休業中には高校入試で出題された教育漢字の書き取り練習100問を範囲として50問の漢字テストを行う。目標は8割として、A評価とする。</p> <p>③すべて自作のプリントを使用し、適宜提出させる。単元開始前には新出漢字・意味調べ・感想・要約・設定問題について予習として家庭学習の上で提出させる。正当性だけでなく、完成度を重点として評価する。</p> <p>④単元の総括として、自作の問題プリントを使用、宿題で取組、授業で意見交流、自己で再検討させた上で提出させる。他者との比較検討を行えているか、指摘を明文化できたかで評価する。</p> <p>⑤授業の最初で前時の重要点と理由・具体例をまとめたものを、1分ずつ3名程度、学期で3回以上プレゼンテーションさせることで「伝える」表現力を高める。内容・視線・構成で8割の達成でA評価する。さらに聞き取りテストを学期に2回以上を実施し、事案の重要性の整理と判断する手立てを習得させる。8割の得点でA評価とする。</p> <p>⑥授業の最後で、4分100字(1学期)、5分130字(2学期)、5分160字(3学期)と設定して、本時の内容の整理と把握をさせる。重要点の根拠を明確にし、具体的に説明を「書く」ことで理解の深長と表現力を高める。</p>	
	<p>[第3学年]</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、言語の活用力を鍛える取り組みを行う。授業内でも「書く」課題を増やし、簡潔で分かりやすい文章表現力を高める。また意見発表会などでは「相手にわかりやすく話すための工夫」を考えること、「要点を押さえて聞き取るための手段」を実践させ、読解力の伸長につなげる。基礎力の拡充と学習習慣の定着を図るために、定期的に「漢字テスト」を実施する。</p>	<p>1、2年次から続けている毎週の漢字テストや休み明けの漢字テスト、教科書に準拠したワークの活用は継続させる。さらに3年間の学習を復習し確認する問題集にも取り組ませることで家庭学習の効率化を図る。</p> <p>文章構成や展開、表現技法等の違いを確実につかむ習慣を付けさせる。「読む」ことから「読み取る」力をさらに高めていくために、「なぜ」や「違う表現では」を繰り返し発問していく。また教科書の既習範囲との比較や、新聞記事などさまざまな形態の文章を扱い、書き手の意図や表現の仕方を読み取り、自己の文章作成に取り入れさせる。書く力を伸ばすために作文の指導に丁寧に取り組む、積極的に作文コンクールに応募させる。</p> <p>「話す・聞く」力を向上させるために、日頃から小グループでの話し合い活動を多く取り入れ、スピーチ発表会やプレゼンテーションなど、皆の前で発表する機会を増やしていく。</p> <p>小テスト・定期テスト・スピーチ発表・様々な提出課題・授業観察の記録など、すべての評価資料の達成率80%以上をA、50%以上80%未満をB、50%未満をC評価とする。</p>	

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
	<p>[第1学年]</p> <p>①毎授業、前回の授業内容の復習や重要語句の再確認を行い、普段の授業の中でも既習事項を活用した問題や演習に取り組み、適宜の小テストを実施することで、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。</p> <p>②毎授業や単元を通して学習課題を設定し、生徒が主体的に課題を解決していくための導入の工夫を図る。その際、写真資料や映像資料などの視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める工夫を講じることで、学習意欲を高めていく。学習活動においては、資料を基に考えたり資料から読み取れることを自分の言葉で表現したりする活動を取り入れることで、資料活用の技能を高めるとともに、社会的な事象等に関する記述力を高めていく。</p> <p>③他者の多様な視点・考え方に触れる機会を設け、社会的な見方・考え方を広め、自身の考えを深めていける活動を取り入れる。具体的には、隣同士での短時間での意見交換や、グループでの話し合いなど、自分が考えたことや、表現したことを伝え合う対話的な活動を取り入れる。</p>	<p>①単元の終わりなどを目安として、基礎・基本を集積した小テストを実施する。この小テストにおいて、全体で7割以上の正答率を目標として設定する。</p> <p>②自分の意見や考えを根拠を示しながら表現することができているかを評価する。そのさい、地理的事象・歴史的事象それぞれについて適切な史資料を精選するとともに、それらの読み取りや関連付けなど、資料活用の技能についても評価する。</p> <p>③ワークシートに自分の考えとともに、他者の考え・意見を書く欄を設ける。授業の最後に本時の授業の振り返り欄を設け、ワークシートにおける記述内容から、授業の主発問に対する自身の意見の変容や対話的活動における生徒の学びを見取り評価する。</p>	
社会	<p>[第2学年]</p> <p>①毎授業、前回の授業内容の確認や用語の復習を行い、小テストの実施などを通して基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。</p> <p>②単元ごとに日本の諸地域に関する生活や自然環境、文化などについて学習した内容をまとめる作業を取り入れ、日頃から社会的事象に関する記述力を高めていく。</p> <p>③写真や映像などの視聴覚教材を継続的に授業に取り入れ、導入時の指導の工夫をこらし、生徒の社会科に関する学習意欲の向上に努める。そして、単元で身につけさせたい力を明確にし、授業の柱となる主発問の設定や対話的活動を促進するなど生徒のより深い学びに繋げていく。</p>	<p>①毎時間の前時の復習については、一問一答形式で演習を行い、解答をワークシートに記入させ、7割以上の正答率を目標値として設定する。また、演習後にはペアでの解答確認や生徒の発言を促していく。</p> <p>②地域的特色や地理的事象について、教科書や地図帳、教員から提示された史資料を用いて、根拠を示しながら自分の考え・意見をまとめることができているのかを評価する。資史料から読み取った内容を関連させて自分自身の意見や考えが構築することを重視する。</p> <p>③ワークシートに他者の考え・意見を書く欄を設け、主発問に対するグループでの意見をまとめる。この活動を通して、授業の最後に本時の授業の振り返り欄を設け、授業の主発問に対する意見の変容や対話的活動における生徒の学びを見取り評価する。</p>	
	<p>[第3学年]</p> <p>①基礎・基本の知識理解を図るために、継続して授業ごとや単元ごとに復習の時間を設けていく。また普段の授業の中でも既習事項を活用した問題や演習に取り組み、適宜小テストを実施することで基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。</p> <p>②日頃から教科書やデータ資料を積極的に活用し、社会的な事象を多面的・多角的に考察する演習を実施する。また自分自身で意見を構築させ、資料活用の技能を身に付けさせるとともに、社会的な見方・考え方を広げていく。</p> <p>③授業では、グループワークやペアワークを取り入れ、他者の視点・考え方に触れることで、より「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒の社会科における資質・能力の向上を目指していく。</p>	<p>①毎時間の前時の復習については、一問一答形式で演習を行い、解答をワークシートに記入させ、7割以上の正答率を目標値として設定する。また、演習後にはペアでの解答確認や生徒の発言を促していく。</p> <p>②現代社会の課題について、教科書や教員から提示された史資料を用いて、根拠を示しながら自分の考え・意見をまとめることができているのかを評価する。資史料から読み取った内容と関連させて自分自身の意見や考えを構築することを重視していく。</p> <p>③ワークシートに他者の考え・意見を書く欄を設け、主発問に対する個人の考察やグループでの意見をまとめる。この活動を通して、授業の最後に本時の授業の振り返り欄を設け、授業の主発問に対する意見の変容や対話的活動における生徒の学びを見取り評価する。</p>	

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
	<p>[第1学年] 個に応じた指導を充実させるため、少人数習熟度授業を効果的に展開する。 αコースでは、1問1問確実に取り組ませることを重視し、関係する小学校での既習事項等の復習を取り入れながら、基礎基本の定着を目指していく。 βコースでは、授業内にできるだけたくさん問題を解く機会を持つように心掛ける。また、学習の基本は「書く」ことであるから、ノートをきちんと取るように指導していく。少し難しいと感じる応用問題に取り組ませたり、自分の考えや解き方を発表させたりする機会をつくり、意識を高めていく。 両コースにおいて、基礎計算の定着を図るために、授業内で毎時間確認テストを実施する。 各章の学習を終える場面で学習内容と日常的な関わりについての考察をレポート形式にて実施する。</p>	<p>①毎時間の確認テストにおいて、αコースでは7割以上の正答を、βコースでは9割以上の正答を目標値として設定する。確認テスト後に実施している3段階の自己評価では、全員がA評価になるように、授業の学習内容のポイントを明確にした指導を徹底していく。 ②学習内容との日常的な関わりについて、自分の身近な生活の場面における数学的な事象について着目できているか、また、学習内容がどのように関わり、そこに数学的なよさがあるのか、考察ができているかを評価する。</p>	
数学	<p>[第2学年] 個に応じた指導を充実させるため、少人数習熟度授業を効果的に展開する。 αコースでは、1問1問確実に取り組ませることを重視し、関係する小学校・中学校での既習事項等の復習を取り入れながら、基礎基本の定着を目指していく。 βコースでは、授業内にできるだけたくさん問題を解く機会をもつように心掛ける。また、学習の基本は「書く」ことであるから、ノートをきちんと取るように指導していく。少し難しいと感じる応用問題に取り組ませたり、自分の考えや解き方を発表させたりする機会をつくり、意識を高めていく。 両コースにおいて、基礎計算の定着を図るために、授業内で毎時間確認テストを実施する。</p>	<p>①毎時間の確認テストにおいて、αコースでは7割以上の正答を、βコースでは9割以上の正答を目標値として設定する。確認テスト後に実施している3段階の自己評価では、全員がA評価になるように、授業の学習内容のポイントを明確にした指導を徹底していく。 ②学習内容との日常的な関わりについて、自分の身近な生活の場面における数学的な事象について着目できているか、また、学習内容がどのように関わり、そこに数学的なよさがあるのか、考察ができているかを評価する。 ③論証指導については、数の規則性や図形の性質についての証明を、穴埋め形式にして正しく証明することができるか、また、穴埋め形式でなくとも自ら仮定から結論へと導くことができるかで段階的に評価する。</p>	
	<p>[第3学年] 個に応じた指導を充実させるため、少人数習熟度授業を効果的に展開する。 αコースでは、1問1問確実に取り組ませることを重視し、関係する小学校・中学校での既習事項等の復習を取り入れながら、基礎基本の定着を目指していくとともに、応用問題にも取り組んでいく姿勢を育てていく。 βコースでは、授業内にワーク・プリント等を利用し、できるだけたくさん問題を解く機会を持つように心掛ける。また、少し難しいと感じる入試問題などの応用問題に取り組む機会もつくるようにして、進路への意識も高めていく。 両コースにおいて、基礎計算の定着を図るために、授業内で毎時間確認テストを実施する。</p>	<p>①毎時間の確認テストにおいて、αコースでは7割以上の正答を、βコースでは9割以上の正答を目標値として設定する。確認テスト後に実施している3段階の自己評価では、全員がA評価になるように、授業の学習内容のポイントを明確にした指導を徹底していく。 ②学習内容との日常的な関わりについて、自分の身近な生活の場面における数学的な事象について着目できているか、また、学習内容がどのように関わり、そこに数学的なよさがあるのか、考察ができているかを評価する。 ③論証指導については、数の規則性や図形の性質についての証明を、穴埋め形式にして正しく証明することができるか、また、穴埋め形式でなくとも自ら仮定から結論へと導くことができるかで段階的に評価する。</p>	

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
	<p>[第1学年]</p> <p>①知識の定着のため、授業内にワーク・プリント等を利用し、できるだけたくさん問題を解く機会を持つように心掛ける。また、適宜小テストやパフォーマンステストを実施する。小学校・中学校での既習事項等の復習を取り入れながら、基礎基本の定着を目指していくとともに、応用問題にも取り組んでいく姿勢を育てていく。</p> <p>②基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るために得た知識を活用しながら観察実験を行わせる。</p> <p>③科学的な思考力を高めるため、観察実験の方法や結果の考察などを既習内容と結び付けて考える姿勢を身に付けさせ、考えを互いに伝え合わせる。</p>	<p>①1時間の授業で終始目的意識をもたせ、学習の目的を意識した授業を展開する。例えば、ワークシートを活用し考えを言語化、発表するなど主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行う。また、授業後の自己評価の理解度で9割の生徒がA評価になるように、指導を徹底していく。小テストでは8割以上の生徒について7割の達成率を目指す。パフォーマンステストでは全員合格させるまで指導を徹底する。</p> <p>②理科を飽きさせず生徒に興味・関心を抱かせるように、学習内容が実生活で生かされていることと関連させながら考えさせることで理解を図っていく。</p> <p>③事物・現象について多面的・多角的に捉えられる観察実験を主体とした授業を行う。そして学んだ知識を使って考えながらホワイトボード等を活用して多様な考えに触れ合う授業を行う。</p>	
理科	<p>[第2学年]</p> <p>①知識理解を図るために、既習事項を活用した問題や演習に取り組み、適宜小テストを実施することで基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。</p> <p>②基礎的・基本的な知識・技能の習得をさらに向上させるため、学び得た知識を活用しながら観察実験時の視点に生かしたり、協働的に作業できるようにする。</p> <p>③ワークシートやレポートなどで考察やまとめを言語化するとともに、口頭や文章等で発表する機会を多く設け、主体的・対話的で深い学びを目標に進める。また、学習内容が実生活で生かされていることと関連させながら考えさせ、理解を図っていく。</p>	<p>①1時間の授業に目的意識をもたせ、学習の目的を意識した授業を展開する。授業後の自己評価の理解度で9割の生徒がA評価になるように、指導を徹底していく。また、ワークシートを活用して思考過程を言語化、発表することを意識した授業を行う。小テストでは8割以上の生徒について7割の達成率を目指す。</p> <p>②生徒に興味・関心を抱かせるように、学習内容が実生活で生かされていることと関連させながら考えさせる。科学的かつ論理的な思考を意識させ、自分の意見を他者に伝え、話し合う活動を取り入れることで理解を図っていく。</p> <p>③観察実験と考察を重視し、学んだ知識を使って考えることができる授業を行う。観察実験では役割分担をし、全員が考察時には個人⇄実験班⇄全体の流れで思考過程を言語化して表現するなど、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を展開する。</p>	
	<p>[第3学年]</p> <p>①基礎・基本の知識理解を図るために、継続して授業ごとや単元ごとに復習の時間を設けていく。また普段の授業の中でも既習事項を活用した問題や演習に取り組み、適宜パフォーマンステストを実施することで基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。</p> <p>②日頃から教科書やデータ資料を積極的に活用し、社会的な事象を多面的・多角的に考察する演習を実施する。また自分自身で意見を構築させ、資料活用の技能を身に付けさせるとともに、社会的な見方・考え方を広げていく。</p> <p>③授業では、グループワークやペアワークを取り入れ、他者の視点・考え方に触れることで、より「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒の社会科における資質・能力の向上を目指していく。</p>	<p>①1時間の授業で目的意識をもたせ、学習の目的を意識した授業を展開する。ワークシートやレポートなどで考察やまとめを自ら言語化するなど主体的・対話的で深い学びの機会を多く設ける。また、生徒同士が互いにまとめた文章を評価しあい、自分の考えを振り返る。自己評価の理解度で、8割の生徒がA評価になることを目指す。</p> <p>②パフォーマンステストを繰り返し行うことによって、基礎基本の定着を図る。7割の達成率を目指す。また、生徒に興味・関心を抱かせるように、学習内容が実生活で生かされていることと関連させながら考えさせることで理解を図っていく。</p>	

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
音楽	<p>【第1学年】</p> <p>①学習意欲を高めるために、目標を明示し、導入を工夫する。肯定的な言葉かけを行い、安心して表現できる授業の雰囲気作りを大切にしていく。</p> <p>②歌唱指導において、身体の使い方等を具体的に指示し、反復練習を行うことで、基礎基本の習得を確実にする。言葉かけやワークシートを通して言語活動を充実させ、音楽表現の工夫につなげる。合唱指導においては、パートリーダーや指揮者・ピアノ伴奏者を中心に、生徒が協力しながら練習し、生徒が考え、表現を深めていく。</p> <p>③鑑賞では、発言の共有化を図り、自分なりに音楽を評価する活動と、評価した内容を批評する活動を取り入れることで、学習の充実を図る。</p>	<p>【第1学年】</p> <p>①毎回の授業で、目標の明示・ふり返りを行い、学習の目的を明確にする。また、身近な音・音楽との関連を意識させることで、意欲的に授業に臨めるよう図っていく。</p> <p>②うたや器楽の実技テストを行い、その結果をフィードバックすることで、今後の学習に生かせるようにする。</p> <p>③授業への取り組みや、定期考査・実技テスト結果、ワークシートの記述内容を評価する。</p>	
	<p>【第2学年】</p> <p>①学習意欲を高めるために、目標を明示し、導入を工夫する。肯定的な言葉かけを行い、安心して表現できる授業の雰囲気作りを大切にしていく。</p> <p>②歌唱指導においては、第1学年で培った基礎的な表現技能の上で、成長過程に合わせて、さらなる表現力を習得できるように図っていく。歌詞の内容に合わせた表現の工夫を行い、その工夫を表現できるよう、発問やワークシートを工夫する。言語活動を充実させる中で、音楽表現の工夫を深める。</p> <p>③鑑賞では、発言の共有化を図り、他者の考えを聞いて、自分の価値意識を再確認し、自分の考えを一層深めていける機会を設ける。</p>	<p>【第2学年】</p> <p>①毎回の授業で、目標の明示・ふり返りを行い、学習の目的を明確にする。また、身近な音・音楽との関連を意識させることで、意欲的に授業に臨めるよう図っていく。</p> <p>②うたや器楽の実技テストを行い、その結果をフィードバックすることで、今後の学習に生かせるようにする。</p> <p>③授業への取り組みや、定期考査・実技テスト結果、ワークシートの記述内容を評価する。</p>	
	<p>【第3学年】</p> <p>①学習意欲を高めるために、導入の工夫をし、ほめる言葉かけや安心して表現できるクラスの雰囲気作りを大切にしていく。</p> <p>②歌唱指導においては、第1・2学年で培った基礎的な表現技能の上で、さらなる表現力を習得できるよう授業を行っていく。歌詞の内容・構成・形式等、楽曲をより深く理解し、音楽表現の工夫を行えるように発問の工夫を行う。</p> <p>③鑑賞では、発言の共有化を図り、他者の考えを聞いて、自分の価値意識を再確認し、自分の考えを一層深めていける機会を設ける。</p>	<p>【第1学年】</p> <p>①毎回の授業で、目標の明示・ふり返りを行い、学習の目的を明確にする。また、身近な音・音楽との関連を意識させることで、意欲的に授業に臨めるよう図っていく。</p> <p>②うたや器楽の実技テストを行い、その結果をフィードバックすることで、今後の学習に生かせるようにする。</p> <p>③授業への取り組みや、定期考査・実技テスト結果、ワークシートの記述内容を評価する。</p>	

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
美術	<p>[第1学年]</p> <p>①スモールステップでの、学習・制作を心掛ける。 ②複数の手本を提示し、完成への多様なイメージをもたせる。 ③生徒の学習段階・能力に合わせた助言と指導を行う。 ④授業ごとに生徒の進捗を確認し、各時間の目標を明確にする。 ⑤掛図やICT機器の使用など、視覚的なイメージを生徒に提示する。</p>	<p>[第1学年]</p> <p>①作品の制作において、8割以上の生徒がその授業時間の目標を達成し、足並みをそろえて進められるようにする。 ②手本は必ず3種類以上準備し、生徒が表現技法を選択できるようにする。 ③2時間に1回程度、生徒の作品へのコメントや、ワークシートへの指導、評価を行う。 ④毎回の授業の冒頭で目標を示し、全ての生徒に自分なりの達成目標を立てさせる。 ⑤視覚的なイメージを呼び起こす材料を毎回準備する。</p>	
	<p>[第2学年]</p> <p>①授業の導入において、複数の種類の違う手本を用意し、発想・構想の幅を広げる。 ②生徒が自らの発想・構想に合わせた技法を選択し、見通しを持って取り組むことができるようにする。 ③制作計画をそれぞれ立てることで、完成への見通しをもち、意欲を持続して取り組めるようにする。 ④より個性を生かした表現ができるよう、生徒の技能を深める指導を机間巡視や個人指導を通して展開する。 ⑤生徒の意欲や成果を認めつつ、更なる向上のため、授業中の声かけや作品へのコメントにおいて助言を行う。</p>	<p>[第2学年]</p> <p>①・②手本は必ず3種類以上準備し、生徒が表現技法を選択できるようにする。 ③生徒が書いた授業記録を毎回チェックし、適宜アドバイスを記入する。 ④2時間に1回程度、生徒の作品へのコメントや、ワークシートへの指導、評価を行う。 ⑤生徒へのコメントやアドバイスにおいて、良かった点と、こうすればもっと良くなるという点を必ず伝える。</p>	
	<p>[第3学年]</p> <p>①用いられている技法やアイデアの種類が異なる手本を提示することで、自ら考えて技法を選択し、表現できるようにする。 ②制作の段階を細かく区切って目標を示し、スモールステップで自ら見通しを持って、制作を進められるように手だてを用意する。 ③授業中の声かけや、授業記録へのコメント、作品へ付ける付箋において、生徒の個性や意欲を評価し、更に完成度を高めるための制作の工夫をアドバイスしていく。</p>	<p>[第3学年]</p> <p>①手本は必ず3種類以上準備し、生徒が表現技法を選択できるようにする。 ②作品の制作において、8割以上の生徒がその授業時間の目標を達成し、足並みをそろえて進められるようにする。 ③生徒へのコメントやアドバイスにおいて、良かった点と、こうすればもっと良くなるという点を必ず伝える。</p>	

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
保健体育 [男子]	<p>[第1学年]</p> <p>①時間を大切にすること、協力して取り組むことを意識させ、声をかけ合い活動できるように指導する。 ②誰でも得意不得意があることを理解させ、良い動きや、生徒同士の言葉がけを積極的に褒める。 ③ポイントを確認にわかりやすく伝えるために工夫をする。 ④学習カードを工夫する。</p>	<p>[第1学年]</p> <p>①授業規律を守り、安全に協力して活動する。 ②技能のポイントを確認にし、相互に評価する場面を設定する。 ③技能のポイントを提示カード等を使ってはっきりと示す。 ④記録したり、考えた内容を記述する学習カード・まとめのプリントを単元毎に作成する。</p>	
	<p>[第2学年]</p> <p>①体育係や学級委員等の呼び掛けを促し、切り換えを意識させる。 ②誰でも得意不得意があることを理解させ、一人一人が動きを改善したり、よりよくするための技能のポイントを意識させる。 ③学習カードやまとめプリントを通して、覚えなければならない内容を明確にするとともに、定期考査後の解説を丁寧に行うことで、正しい知識の定着を図る。 ④考えた内容を学習カードに記録したり、それをもとに発表する機会を設ける。</p>	<p>[第2学年]</p> <p>①体育係や学級委員等に声をかけ、自覚を持たせ取り組ませる。 ②技能のポイントを確認にし、各単元で1回以上、相互に評価する場面を設定する。 ③学習カードやまとめプリントや定期考査を活用して、知識の定着を図る。 ④相互にアドバイスをしたり、それを伝える場、発表する場を設定する。</p>	
	<p>[第3学年]</p> <p>①運動と集合、説明等を素早く行い、運動時間をさらに確保する。 ②得意不得意があることを認め合い、苦手を克服するための言葉掛けが増えているため、班での話し合い、教え合い活動や、班練習等を多く取り入れた展開を工夫する。 ③各単元毎にまとめのプリントを配布し、基本的な内容を明確にするとともに、工夫した内容を具体的に記述させる。また、その内容を発表する場を設ける。</p>	<p>[第3学年]</p> <p>①リズムよく進行し、主運動の時間を40分以上確保する。 ②話し合い・教え合い活動やチーム練習等を多く設定する。 ③工夫した内容を具体的に記述するプリント、学習カードを作成する。</p>	
保健体育 [女子]	<p>[第1学年]</p> <p>①時間や服装、協力して取り組んでいくことについて意識させていく。 ②誰でも得意不得意があることを理解させ、その上で、一人一人が動きを改善したり、よりよくするための技能のポイントを確認させる。 ③単元毎にまとめプリントを作成し、技能やルールの内容を定着させていく。</p>	<p>①時間を守る、準備・片づけは協力して行うなど、授業規律を徹底させていく。 ②自らの課題を考え、技能のポイントを抑えられるように視覚資料などを工夫していく。 ③単元ごとのまとめプリントや学習カードを用いて、基礎基本の定着を図っていく。目標として、7割以上の正答を目指し、基礎内容の確認を行っていく。</p>	
	<p>[第2学年]</p> <p>①グループやチームにおいて互いに協力する、目標を目指して取り組むことを重点的に実践していく。 ②一人一人が動きを改善したり、よりよくするための技能のポイントを確認させていく。 ③まとめプリントや学習カードなどの内容の定着を図っていく。 ④具体的にどのような動き方がよいか、どんな工夫が必要かなどの発問を多く取り入れ、実践的に考えさせていく。</p>	<p>①不得意な友達にも教えたり、配慮をしたりする場面を意識できるような声かけを行う。 ②技能面は技能のコツをつかめるように、ペアやグループ学習を取り入れ、教え合い活動を活用していく。 ③保健分野では毎回の授業の課題を提出させていく。そして内容の定着が図れるように、6段階評価でフィードバックを行い、A、B、Cの評価が7割を超えられるように指導していく。また自分の考えを表現できるように学習カードやまとめプリントを活用する。 ④よく考え、実践できた事例は取り上げ、浸透できるように工夫していく。</p>	
	<p>[第3学年]</p> <p>①協力し、教え合う活動を増やすために、ペア学習やグループ学習を今後も実践していく。 ②自らの目標や課題を考え、練習方法を考えさせていく。 ③チームや複数人での活動において、どのような作戦を立て、実践していくかを考えさせていく。</p>	<p>①友達の意見や発表を聞いて新たな発見ができるようなペアワークを実践し、良い活動は取り上げて共有していく。 ②毎回の授業で学習カードを提出し、目標に対する取り組みを一人一人確認しながら、課題を意識させていく。また、各自の目標達成に対する自己評価を考えさせていく。自己評価は6段階で毎時間フィードバックしながら、最終的にA、Bの評価が7割以上を目指して指導する。 ③話し合い活動を多く取り入れ、友達の考えやの内容を共有し、課題解決できる場を設ける。</p>	

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
技術・家庭科	<p>[第1学年] 評価カードを活用し、授業内評価を進める。進度の遅い生徒へ個別指導をさらに進める。グループワークを取り入れる。進度の速い生徒には発展的な課題挑戦し、より深い学びを図る。</p>	<p>自己評価をフィードバックして技術の習得につながっているか。 グループワークから新たな発見をして技術の習得につながっているか。 3割以上の生徒に発展的な課題に取り組ませる。</p>	
	<p>[第2学年] 評価カードを活用し、個人内評価を進める。進度の遅い生徒、特別に支援が必要な生徒への個別指導を進める。進度の速い生徒には発展的な課題を設定し意欲を高める。レポート作成を取り入れ、基本的なレポート作成のスキルを身につけさせる。</p>	<p>評価カードの活用が技術の習得につながっているか。 レポート作成の要素をみたしている生徒の割合を5割以上になるようにする。</p>	
	<p>[第3学年] 評価カードを活用し、授業内評価を進める。 評価項目の一つとして、内容のまとまりごとにレポート作成の時間を設定し、レポートを作成させる。レポート作成について主体的能動的に取り組めるよう配慮する。 実技における技術習得についても評価の回数を増やす。また、内容のまとまりごとにレポートを作成させる。</p>	<p>自己評価をフィードバックして技能の習得につながっているか。 評価カードの活用が技術の習得につながっているか。 レポート作成の要素をみたしている生徒の割合を6割以上とする。さらに工夫、創造の観点から評価できる点があるできる生徒の割合を2割以上とする。</p>	

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
英語	<p>[1学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> * 少人数授業を活かし、個に応じた指導を充実させる。反復練習による基礎の定着及びわかる授業を目指す。 * 学習した内容を、自己表現の手段として生かす活動を設定する。 * 常活動として、ビンゴゲームを継続して行う。基礎的な語彙の定着・強化を図ると共に、生徒の聞く力や書く力の育成に繋げる。 * 新出文法事項は、具体的な使用場面を与え、口頭による導入で理解を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> * ペア・グループ活動を積極的に取り入れ、日常的に発表の機会を多数作る。 * 会話練習教本(Step Up Talking)を活用し、自己表現に繋がる練習の機会を文法項目ごとに作る。 * 自己・他者について英文にまとめ、スピーチとして発表する。 * 単語テストや基本文テスト・リスニングテスト・スピーキングコンテストの実施。(各単元・長期休業明け) * ALTとの会話テスト等を実施する。(10～11月、1～2月) 	
	<p>[2学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> * 少人数授業を活かし、個に応じた指導を充実させる。工夫した反復練習により、基礎の定着とわかる授業を目指す。 * 新出文法は、具体的な使用場面を設定し、口頭による導入を丁寧に行なう。 * 学習した内容を、自己表現の手段として生かす活動を設定していく。 * 常活動として1年次の教科書を活用したディクテーション(書き取り)活動を継続して行い、1年次の復習をしながら基礎の定着・強化を図ると共に、生徒の聞く力や書く力の育成を目指す。 * 協力して取り組む課題を設定することで、教え合い・学び合いの活動を取り入れ、学びの深化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> * ペア・グループ活動を毎回の授業に積極的に取り入れ、日常的にoutputの機会を作る。(Step Up Talkingの活用) * 自分の考えや意見を英文にまとめ、スピーチとして発表するパフォーマンステストを学期に1～2回程度実施(好きな有名人の紹介・将来の夢など)し、目標に対し、7割以上の達成率を目指す。 * 単語テストや基本文テストを各単元後また長期休業明けに実施し、6割以上の達成を目指す。 * 練習ノートを活用し、単語や英文を習得させる努力につなげ、自分の目標に向けて努力させる機会をもつ。(毎月100行) * ALTとの会話テスト等を学期に1回以上実施(6月、11月)し、7割以上の達成を目指す。 * グループを取り組む共同学習課題を設定する。(群読発表、インタビュー活動等) 	
	<p>[3学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> * 少人数授業を活かし、個に応じた指導を充実させ基礎の定着と反復練習によりわかる授業を目指す。 * 学習した内容を、自己表現の手段として生かし、仲間の相互理解も深める。 * スピーキングの表現力と初見の英文の読解力を伸ばすために、演習を意識的に増やす。(常活動として読みトレを活用した読解トレーニングを行う) * 新出文法事項は、具体的な使用場面を与え、口頭による自己表現によって導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> * ペア・グループ活動を積極的に取り入れ、日常的に発表の機会を多数作る。(Step Up Talkingの活用) * 行事で体験したことを英作文に表し、スピーチをさせる。(7月:修学旅行のスピーチ) * 休業明けに小テストや基本文テスト(8月)を実施する。7割に得点を目指す。ALTとの会話テスト等を実施する。(6月、11月)8割以上の得点を目指す。 * 3年生は修学旅行で外国人と交流し、コミュニケーションが実際にできる達成感を味わわせる。(5月) 	